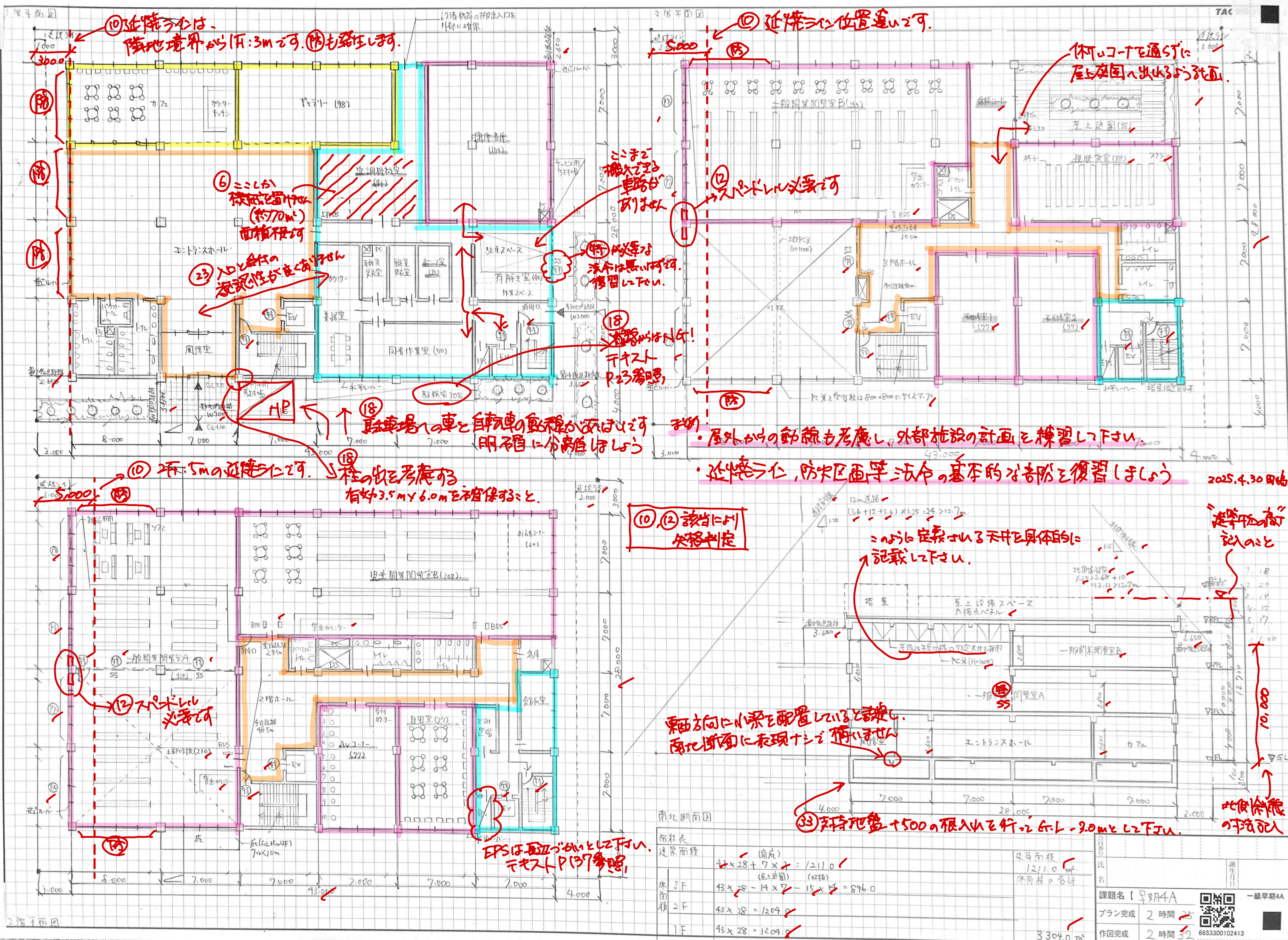




要求図面では表せない建築物の計画上の要点等について、次の(1)~(10)を具体的に記述又は図示する。

(1) 書籍のセキュリティについて考慮したこと

一般開架閲覧室A、B及び児童開架閲覧室の出入口にはBDSを設け、本の持ち出しの勝手に行わないよう考慮した。開架書庫は管理ゾーンに配置すると共に、荷解室からの動線を短くすること、管理者の管理が行いやすくすると共に、利用者が勝手に出入りしないよう考慮した。

→ヤマトの内部ではないです。自由に

(2) 北側に公園が隣接する周辺環境を踏まえ、建築計画上特に考慮したこと

1Fはカフェとトイレに配置すること、公園の眺望を取り入れるよう考慮した。2、3Fも一般開架閲覧室A、B、児童開架閲覧室を北側に配置すること、閲覧席から公園の眺望を取り入れるようにすると共に、利用者が自然を感じやすくすることから空間を作れるよう考慮した。

やすい どのような 端的に記述すると良いです。

(3) 一般開架閲覧室の室内の構成(書架、閲覧席等の配置)について考慮したこと

一般開架閲覧室A、Bともに、書架間の通路を広くとること、車椅子利用者も快適に利用できるよう考慮した。実際の書架は腰壁までの高さとし、室内に光を取り入れつつ、蔵書数を確保することが7Fにできるよう考慮した。閲覧席は公園側に配置すること、自然光と浴びながら快適に読書できるように考慮した。

(4) 防火区画(面積区画・堅穴区画)をどのように区画形成したかについて、具体的に記述する

【イメージ図記入欄(必ず記入すること)】

面積区画は、1500㎡以内で区画できるよう各階ごとに区画する計画とした。堅穴区画は、階段室、エレベーター及び特定防火設備で区画する計画とし、3階一般開架閲覧室Aの吹抜け部分はシャッター及び防火戸を設けること、堅穴区画を形成する計画とした。

→防火区画のところに特に注意。具体的に書くことが重要です。

(5) 採用した基礎構造の形状、基礎底面のレベル、基礎梁の寸法等について特に考慮したこと

基礎構造はバタ基礎とすること、不同沈下の心配はないようにすると共に耐久性に考慮した。基礎底面レベルは、地盤-30以上の砂礫層で支持できるように、GL-2.5mの位置を支持層とした。基礎梁の寸法は、幅500、高さ2000とすること、構造安全上問題ない寸法計画とした。

→500幅入力を考慮してGL-3.0mと2F下を。

(6) 吹抜け部分の構造計画について、特に考慮したこと

【イメージ図記入欄(必ず記入すること)】

柱C1: 750×750、C2: 800×800
大梁G1: 600×800、G2: 500×1000
小梁B1: 300×600

→吹抜け内には柱及び梁が見えこまないよう、X方向の中央はプレキャストコンクリート(PC梁)を設ける計画した。PC梁を受ける柱は通常の柱よりササズ、7°とする計画とし、応力に対応する計画とした。屋上のスラブのT-ねみと考慮し、吹抜け内を4等分する間隔で小梁を設けた。

(7) 開架書庫の書架の荷重に対して構造計画上特に考慮したこと

開架書庫は蔵書数が多く、通常の室よりも過大な応力がスラブにかかるため、厚さを250mmとした。室の荷重を支えるスラブがたわみおそれがあるため、小梁をスラブを等分する位置に計画した。

(8) 建築物の空調計画について特に考慮したこと

吹抜けのある一般開架閲覧室Aの空調は、ダクト接続型とし、天井から供給される空気が居住域空間にも循環するよう、床面近くに吸気口を設けた。窓際(バリエーションゾーン)には外気の影響が出やすいことから、吹込口を多く配置すること、快適に過ごしやすい空調計画とするよう考慮した。

(9) 設備機器の維持管理及び機器の更新について考慮したこと

給水管及び排水管と管理するPSは、1m×1m以上のスペースを確保し、管理しやすい広さを確保するよう考慮した。EPSと管理する点検口の幅は2m程度確保すること、機器の更新が行いやすいよう考慮した。

(10) 省エネルギー化の実現及び再生可能エネルギーの導入によるエネルギー自立度を高めるために、建築・設備で配慮したこと(ただし、LED照明、Low-Eガラスに関する記述は除く。)

冷房時の日射を考慮し、窓の遮り、居室空間を快適に過ごせるよう南向きに水平に、東西側に鉛直ルーバーを設けた。屋上には太陽パネルを設置することで、一次エネルギー消費を削減し、省エネルギーに貢献できるように考慮した。

→記述の例を参考に学習を進め、バリエーションを増やして下さい。

2025.4.30 田嶋

一級建築士 早期講義 早期課題4A (Web通信講座 添削対象課題)	氏名	校名	記述完成時間
0			時間 58 分